

家庭教育力の強化を図ろう

～ まずは親が学ぼう ～

岡崎市立本宿小学校父母教師会

1 学区及び学校の概要

本校は岡崎市の東部地区に位置し、豊川市、蒲郡市と隣接する自然に囲まれた学区である。南北に伸びる学区の中央には国道一号線や旧東海道、名鉄本宿駅があり歴史的文化遺産も数多く存在する。児童数は311人。

2 研究のねらい

家庭教育は親が我が子に向けて行う教育であり、生きていくために必要なことを生活を通じて伝えていくものである。それには親自身が受けてきた教育の経験を活かすことはもちろん、専門家や他人の意見を柔軟に取り入れることも重要である。また、子どもにはそれぞれ個性があり、家庭によって置かれている環境も異なる。ゆえに、親自身の経験や他人がうまくいった方法が必ずしも我が子に通用するとは限らない。

本研究は、「家庭教育力を強化するためには、家庭教育に関する様々な情報を幅広い分野から収集し、その中から我が子の特性に合ったものを選定して働き掛けることが重要である」との仮説のもと、“～まずは親が学ぼう～”をテーマに研究を進めた。



3 研究の方法と結果

(1) アンケートの実施

各家庭の保護者に対し、家庭教育に関する意識や考え方、参考としているもの、悩みなどをアンケートを通じて調査した。アンケートは紙面（図1）にて各家庭に配布すると同時に、QRコードやウェブアンケートを活用し、保護者がスマートフォンから直接アンケートを閲覧・回答できるように工夫した。実施したアンケートは以下の5点であり、すべて無記名式とした。

- ① 家庭教育に関する意識調査：子どもの生活習慣やマナー、挨拶などの“躰”について調査
- ② 「あなたのお勧め書籍・ウェブサイト募集します!」：保護者の皆さんがお勧めする“家庭教育に関する書籍やウェブサイト”を募集（図1左）
- ③ 「こんなときどうする?」：家庭生活におけるエピソードをもとに、子どもの行動に対する親の働きかけについて調査
- ④ “ゲームやネット閲覧時間の決め方についての各家庭の対応”を募集
- ⑤ 家庭教育に対する今後の取り組み方を調査



図1. 保護者がお勧めする“家庭教育に関する書籍やウェブサイト”の募集(左)と、その募集結果を公表したチラシの一部(右)。実施したすべてのアンケートはQRコードからウェブにアクセスし、回答を送信できるようにした。

(2) アンケート調査結果等の発信と活用

アンケート結果や保護者の推薦書籍・ウェブサイトを、運営側が有益と判断した情報や考察と合わせて各家庭に配布した（図1右）。また、アンケートによって得られた家庭の悩み事のうち最も多かった意見「ゲームやネット閲覧時間の決め方」について、次のアンケートテーマとして活用した。

(3) アンケート調査結果（抜粋）

- ◆子どもの生活習慣やマナー、挨拶などの“躰”に関しては、積極的に対応する回答が大半を占め、保護者の家庭教育に対する意識の高さがうかがえた。
- ◆子育てに関して参考にしてしている情報源は「書籍やウェブサイト」、「ご近所・友人」など積極的に情報を収集している保護者と、「自分自身が親から受けた経験」、「特に参考にしてしているものは無い」など情報の収集には消極的な保護者に二分された。
- ◆「家庭でのゲームやネット閲覧時間の決め方」について悩みを持たれている家庭が多かった一方で、工夫し上手に対応されている家庭も少なくなかった。
- ◆家庭生活における子どもの行動への対応に関して、子どもの気持ちの読み取り方や解釈は保護者の間で相違がみられた。
- ◆「本研究が終了しても、継続して家庭教育を学び、子どもに実践していきたい」と回答した保護者が大半であった。

(4) 『子どもと一緒に通学路の安全を考えよう』活動の企画と実践

昨年度実施したアンケートでは、7割近くの保護者が「登下校の安全面で不安を感じたことがある」との調査結果が得られた。そこで本研究では「学区内に潜む危険箇所を記した安心安全マップ」や「小学校における交通安全指導ワンポイントマニュアル」を用いて、登下校の安全面について学ぶことを提案したチラシを作成し各家庭に配布した。また、実際に親子で通学路を歩き、親から子へ安全面への学びを伝える機会を企画し、児童引き渡し訓練日に合わせて実施した。各家庭が活動を実践している様子は各地域で見られた（図2）。本活動に対しては後日、保護者の方から多くの称賛の声を頂いた。



図2. 子どもの安全確保のために保護者のできることを提案・企画したチラシの一部(左)と、子どもと一緒に通学路の安全を考えながら帰宅する風景(右)。

4 考察と今後の課題

本研究ではアンケート調査とその結果のフィードバックを繰り返し実施してきた。アンケートに回答した保護者は必然的に「家庭教育とは何か」を考えることとなった。特に「自分の考えとは異なる他人の意見」を目の当たりにした保護者には大きな効果があったであろう。

家庭教育力は容易には向上するものではないが故に、今後も継続的な学びが重要となる。同時に子どもの特性を理解し、それに対応した働き掛けを実施することも必要となる。今回、アンケートに回答いただけなかった家庭への働き掛けを含めて今後のPTA活動の課題としたい。